

施策評価シート (平成29年度の振り返り、総括)

作成日 平成30年 06月 21日

施策 No.	5	施策名	まちの活力再生・魅力創出プロジェクト
主管課名	都市計画課	電話番号	0285-83-8151
関係課名	都市計画 新庁舎周辺 商工観光 企画 農政 スポーツ振興 新庁舎準備室 こども家庭 都市計画 生涯学習 文化 学校教育		

施策の対象	市民								
対象指標名	単位	23年度実績	24年度実績	25年度実績	26年度実績	27年度実績	28年度実績	29年度実績	31年度見込
人口	人	82,136	81,511	80,929	80,698	80,590	79,422	79,542	80,200

施策の意図	若い世代が魅力を感じ、担い手となって未来をとともに描いていけるような、新たなもおかの元気を創出する。								
成果指標設定の考え方及び指標の把握方法(算定式など)	<ul style="list-style-type: none"> 観光客入込数は、県調査によるデータ。(平成29年1月～平成29年12月) 撮影候補地数、放映件数、撮影の問い合わせ件数は、観光協会データによる。 競技力向上成果表彰者数、総合型地域スポーツクラブ会員数は、スポーツ振興課の集計により把握する。 								
成果指標名	単位	23年度実績	24年度実績	25年度実績	26年度実績	27年度実績	28年度実績	29年度実績	31年度基本計画目標値
観光客入込数	人	2,230,492	2,463,570	2,845,313	2,865,281	2,865,612	2,912,127	2,990,649	3,000,000
撮影候補地数	箇所					53	53	53	70
放映件数(累計)	件					6	26	40	40
撮影の問い合わせ件数(累計)	件					30	80	130	180
競技力向上成果表彰(年者数)	人					88	95	74	98
総合型地域スポーツクラブ会員数	人					0	291	312	350

施策の成果向上に向けての住民と行政との役割分担	
-------------------------	--

1. 施策の成果水準とその背景（近隣他市や以前との比較、特徴、その要因と考えられること）

（１）施策成果の時系列比較（過去3年間の比較）

○DC（デスティネーションキャンペーン）を契機とした観光振興

○各種地域資源をつないだ「真岡ブランド」づくり

観光客入込数は、年々増加しており平成29年が2,990,649人で、平成27年と比較して125,037人（104.4％）の増加となっている。

平成27年 2,865,612人（前年比 100.0％ 同水準）

平成28年 2,912,127人（前年比 101.6％増）

平成29年 2,990,649人（前年比 102.7％増）

○フィルムコミッションの推進

撮影候補地数については、平成27年度から53箇所に変更はないが、放映件数及び撮影の問い合わせ件数は増加している。

放映件数 平成27年度 6件 平成29年度 40件（34件増）

問い合わせ件数 平成27年度 30件 平成29年度 130件（100件増）

○スポーツによるもおか創生の推進

・真岡市体育協会年度内表彰者については、平成29年度は74人で、平成27年度と比較して14人減少している。

・統合型地域スポーツクラブ会員数については、平成28年4月に「もおかスポーツクラブ」が設立され、平成29年度末で312人が会員となっている。

平成28年度 291人 平成29年度 312人（21人増）

（２）近隣他市との比較

○DC（デスティネーションキャンペーン）を契機とした観光振興

○各種地域資源をつないだ「真岡ブランド」づくり

平成27年から平成29年の観光客入込数は3年連続で県内14市中10位であった。

○コミュニティFM事業

県内では既に栃木市（FMくらら）、宇都宮市（ミヤラジ）、小山市（おーラジ）が開局しており、下野市が平成31年4月に開局を予定している。

（３）住民期待水準との比較

○中心市街地のリノベーションの推進

市民意向調査において、今後力を入れてほしい施策のうち「都市基盤の整備」は、27年度：16.8％、28年度：12.4％、29年度：19.1％、前年比 6.7％増 38項目中 7位

○DC（デスティネーションキャンペーン）を契機とした観光振興

○各種地域資源をつないだ「真岡ブランド」づくり

市民意向調査において、今後力を入れてほしい施策のうち「観光の振興」は、27年度：13.2％、28年度：9.9％、29年度：8.8％、前年比 1.1％減 38項目中23位

○スポーツによるもおか創生の推進

市民意向調査において、今後力を入れてほしい施策のうち「スポーツ・レクリエーションの振興」は、H28年度：7.2％、H29年度：8.1％、前年比 0.9％増 38項目中25位

○廃校施設等を活用した地域活性化の取組

市民意向調査において、今後力を入れてほしい施策のうち「廃校施設を活用した地域活性化の取組」は、28年度：8.8％、29年度：15.5％、前年比6.7％増 38項目中11位

29年度の
評価結果

2. 施策の成果実績に対してのこれまでの主な取り組み（事務事業）の総括

1. 中心市街地のリノベーションの推進

・中心市街地のうち、未整備となっている台町地区を対象に、まちづくりの整備手法について区長・町会長を対象に説明会を開催した。（2回）
・本市の観光拠点である、真岡木綿会館及び久保記念観光文化交流館のさらなる賑わい創出のため、賑わい創出景観形成事業として庁内にワーキンググループを組織し、集客対策や景観の整備方法等について検討を行った。

2. まちのステーション整備の推進

・庁内に新庁舎周辺整備検討委員会を設置し、新庁舎周辺整備基礎調査報告書を取りまとめた。

3. DC（デスティネーションキャンペーン）を契機とした観光振興

・芳賀地区観光推進協議会と連携し、新たに作成したDCパンフレットや啓発品をJR大宮駅で配布するなど市内外での広報活動を展開した。
・DCに向け、新たな観光資源として活用できるようD51型SLの動態整備を実施した。
・栃木DC宣伝会議において、全国の旅行事業者等に対し、本市の観光資源を紹介し情報の発信に努めた。

4. フィルムコミッションの推進

・市及び観光協会のホームページへの掲載や「栃木フィルムコミッション」への撮影地登録の他、イベント開催時にPRブースを出展し活動内容を紹介するなど、積極的な情報発信に努めた。

5. 廃校施設等を活用した地域活性化の取組

・真岡市公共施設等総合管理計画の実施計画として策定した真岡市公共施設再配置計画において、廃校施設を含む未利用施設の有効活用に係る検討フローを定めた。
・全課を対象として廃校に関する意向調査を実施し、廃校利活用の庁内案を取りまとめた。

6. 各種地域資源をつないだ「真岡ブランド」づくり

・全国いちごサミットin真岡の開催に向け、庁内の検討部会や関係機関・団体で組織する準備委員会を組織し、大会の概要やスケジュール、企画等について協議を進めた他、山形県鶴岡市のメロンサミット等の視察を実施した。
・もおかいちごフェスタ2017（12月）や、もおかいちごフェスタin有楽町（1月）、いちごフェスタin道の駅にのみを開催し、いちご日本一を市内外にPRした。
・公共施設の愛称にいちごを活用し、知名度の向上やイメージアップを図った。（いちごゴルフクラブ、いちごの湯、いちごチャットパレス、いちごチャンネル、いちごSLワールド、にのみやとちおとめホール、市民いちごホール、道の駅にのみやいちご愛菜館）
・アニメキャラクターを市の応援キャラクターに認定し、若年層に向けて市の話題づくりや魅力を発信し、いちごブランド力向上を図った。

7. スポーツによるもおか創生の推進

・スポーツ・レクリエーションの活動拠点として、総合運動公園北ブロックの整備を平成23年度から進めている。平成29年度は弓道場、クラブハウスが完成し供用を開始している。（平成29年度末事業費ベース進捗率71.2%）
・栃木SC支援事業として、真岡市民デーの開催や親子サッカー教室を開催し、プロスポーツ界で活躍する選手と直接交流できる機会を設けた。（真岡市民デー参加312名、親子サッカー教室参加146名）
・スポーツ競技力向上及びスポーツに触れる機会を提供するため、総合型地域スポーツクラブやスポーツ少年団の活動を支援した。
総合型地域スポーツクラブ「もおかスポーツクラブ」
会員数312名 スポーツ教室の開催 9種目155回、参加延べ人数5,356人
スポーツ少年団 40団体登録 大会参加（郡大会以上）交付金の交付 24件
・スポーツ指導者育成のため、スポーツ少年団サポーター登録制度を平成29年10月に創設した。（平成29年度登録者1名）
・スポーツ大会・イベントの開催を通じて参加者や観客に本市の観光情報など魅力をPRした。（真岡井頭マラソン（10月）：参加者2,112人、はが路ふれあいマラソン（12月）：参加者2,531人）

8. コミュニティFM整備事業

・総務省関東総合通信局と開局に向けて協議を行った。また、放送エリア実施設計業務及び、先進地視察（ミヤラジ（宇都宮市）他3箇所）を実施し事業内容の検討を行った。

29年度の
評価結果

3. 施策の課題認識と改革改善の方向

1. 中心市街地のリノベーションの推進

・土地利用の現況調査や住民意向調査等の実施により、平成31年度を目標に台町地区を中心としたリノベーションの基本方針等を策定する。
・中心市街地の賑わいを創出するため、本市の観光拠点である真岡木綿会館及び久保記念観光文化交流館の景観の整備を平成30年度に実施する。

2. まちのステーション整備の推進

・民間の資金やノウハウ等の活用を念頭に、日ごろから多くの市民に利用してもらえるよう平成31年度を目標にまちのステーション整備に係る基本構想・基本計画を策定する。

3. DC（デスティネーションキャンペーン）を契機とした観光振興

・SLキューロク館や久保記念観光文化交流館、真岡木綿会館などへの回遊させる取組みを展開し、賑わいを創出していく。

4. フィルムコミッションの推進

・ロケーション撮影地の掘り起こしや情報収集に努め、メディア等に積極的に情報発信していく。
・これまでに放映された場所に看板等を設置するなどPRに努める。

5. 廃校施設等を活用した地域活性化の取組

・地域の意向を把握するとともに、サウンディング（対話型市場調査）により民間事業者の考えも取り入れながら、利活用を図る事業者を公募する。公募した事業者及び利活用案については、有識者や地域の代表者等で組織する選定委員会において協議し、各校ごとの有効な利活用方法を決定していく。

6. 各種地域資源をつないだ「真岡ブランド」づくり

・全国いちごサミットin真岡の開催に向け、実行委員会を組織し基本計画を策定する。
・真岡式グリーンツーリズム構築に向け、推進協議会を設立し、いちごを核としたプロモーション活動、基本計画の策定、体験プログラムや新商品開発、各種事業への新規参入支援等により都市と農村の交流を推進し、地域活性化及び移住や起農につなげる。

7. スポーツによるもおか創生の推進

・総合運動公園整備の推進を図る。（平成30年度北ブロック整備完了、南ブロック基本設計実施）
・スポーツ・レクレーションを推進するため、基本的な方向性を定める「真岡市スポーツ推進計画」を平成30・31年度の2ヵ年で策定する。

8. コミュニティFM整備事業

・公設民営方式による運営方式の確立と、地域に密着した行政情報や防災情報等、コミュニティFM事業の必要性を市民に理解してもらい新庁舎に合わせた開局を目指していく。

29年度の
評価結果

補足事項